会 議 録

会議の名称		平成29年度 第1回 守谷市社会教育委員の会議		
開催日時		平成29年10月30日（月） 開会：10時00分 閉会：11時30分		
開催場所		守谷市役所 中会議室		
事務局（担当課）		教育委員会 生涯学習課		
出席者	委員	仁田議長，仁平副議長，霜多委員，堀込委員，高橋委員，櫻井委員，持田（憲）委員，槇野委員，吉村委員，持田（正）委員，川崎（国）委員，中村委員，鴻巣委員 計13名		
	その他			
	市職員	後藤教育長，飯塚教育部次長兼生涯学習課長，福島課長補佐，山口主任 計4名		
公開・非公開の状況		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0人
公開不可の場合はその理由				
会議次第		1 開会 2 挨拶 3 議題 (1) 放課後子ども教室の充実について (2) その他 4 閉会		
確定年月日		会議録署名		
平成29年11月30日		議 長 仁 田 栄		

審 議 経 過

1 開会

会議の公開、会議録への発言者の氏名記載について、委員全員の承認を得た。

2 挨拶

仁田議長

後藤教育長

3 議題

1 放課後子ども教室の充実について

(1)～(5)について、事務局から資料に沿って説明

仁田議長： スタート当初から携わっている者の一人として補足説明すると、茨城県の市町村の中から守谷市に依頼があつて、委託事業として請け負ったのですが、初めは何をしたら良いのかわかりませんでした。

まず、立ち上げる時点で、どういうことをするかという以前に、1年生から6年生が同じ場所でいっしょに交流を深めることを目的にしようというのが初めの一歩でした。

学校の施設をお借りするという事は安心できることですが、携わる人々を集めることに大変苦勞しました。今でこそ、マネージャー、支援員と地域ボランティアの皆さんの中で子ども達を見守る体制が組織化されていますが、当時は、PTAの保護者の方をお願いしても、そもそも、就労しているから預けるのであつて、当然、毎日来ることはできません。それでも、年一回は、子ども達の活動を見てほしいということで協力いただいていた。

また、地域ボランティアの確保については、顔見知りの方に声を掛けて、1校当たり5～6人の方をお願いしました。現在まで継続していただいている方もいますが、高齢によりお辞めになった方も多く、新たに加わってくださる方がなかなか見つからないのが現状です。

運営を民間に委託してからは、日々の活動に関しては心配ないのですが、最大の悩みは「子ども達をどう見守るか。」ということ、さらに、外部評価の方からあつたように、勉強を教えてください方の確保はどうしたらよいかということも悩みの種の一つだと思います。

そして、いちばん気を使われているのは、各学校の校長先生方、放課後子ども総合プランでの立場で言うと「施設長」という役割をお願いしていますが、放課後のことだから関係ないということではなく、学校内での活動のため、校長先生イコール施設長に御尽力いただいている、常に学校との連携を保っていかなければ継続できない事業だと感じています。

委員の皆さんから、現在の活動に関して、また、更なる充実を図るためにはどのようにしたら良いかなどの御意見をお願いします。

持田（正）委員： この事業に関しては、私が定年退職を迎える2年前から計画されていて、茨城県が、県内各郡市の代表校長を集めて、少子化に伴う諸問題の中で、教育界が協力できることとして、文部省（当時）でこのような動きがあるので、これから2～3年先の退職校長は、こういう仕事の要請があったら、意欲的に協力してほしいという話がありました。

守谷市は、県内でもいち早く事業に取り組んでいましたが、平成24年度から運営を民間に委託するという事で協力依頼があり、3年間、統轄責任者を引き受けさせてもらいました。現在は、顧問として、定期的に各学校を巡回しています。

この事業に関わって難しいと感じたことは、支援員の考え方がそれぞれ違うので、指導（支援）がまちまちにならないように擦り合わせをどのようにしたら良いかということです。

外部評価にある「生涯学習としての付加価値を与えてほしい」という、ただ安全に遊ばせておけばいいのではなく、もう一歩踏み出してほしいという意見は十分に理解できます。しかし、学習支援に関して現場の立場から言うと、学習サポーターという役割の人もいない中で、ボランティアの方々に学習指導までお願いすることは、学校の先生方に御迷惑をかけるという側面もあります。私と同じ昭和20年代、30年代の学習の方法や解の導き方を助言してしまうと、学校の授業で混乱を来たしてしまうという側面もあるので、学習支援に踏み込むためには、それなりの知識経験を持っていて、今、学校の先生方はどのような解の導き方をしているのかという、ある程度の認識を持った人がやらないと、結果的に子どもや学校に迷惑をかけてしまうことになります。

もし、学習支援をするとなると、学習サポーターを位置付ける必要があり、予算化もしなければならぬと思うので、少し難しいと思います。

また、ゆとり教育に関して言うと、ほとんどの保護者が誤った理解をしているようですが、3割授業時数が減ったからゆとりができて子ども達が勉強しなくなったからダメなんだという考え方ではないんです。

分かりやすく言えば、30個の○が3割削減で21個になった中で勉強を進めると、子どもの実態として、平均的な子どもと、進んでいる子どもと、やや遅れて気味の子どもの大きく3つに分かれます。今までは、一つ単元が終わると間を置かず次の単元に進めるしかなく、やや遅れ気味の子どもに基礎基本を徹底的に

教える余裕がありませんでした。しかし、〇を深くして、遅れ気味の子どもを徹底的に底上げする、進んでいる子どもにはもっと高いレベルの問題を教えるという時間的余裕が生まれるというのが「ゆとり教育」の発想なんです。

さらに、総合的な学習の時間などが増えて、幅の広い学習ができるようになっています。

仁田議長： 各学校に地域ボランティアで参加されている方や講座等の講師をしている委員もいらっしゃると思いますが、御意見はありませんか。

高橋委員： かつぼれを教えに行ったことがあります。受け入れる方もなかなか難しい問題があるようです。曜日や時間を調整するのが大変です。

子ども達は楽しそうに踊ってくれて、教えたことをすぐに吸収して、覚えも非常に早く、驚いています。

ただ、私達に対する支援員の対応が冷たいと感じることがありました。時間もある程度で「ここで終わりにしてください。」と冷たく言われたりして尻込みすることもありました。

今、黒内小からお声がかかっていますが、支援員とのコミュニケーションの取り方がすごく難しいと感じています。「来てください。」「わかりました。やりますよ。」ではダメだと思います。事前の打ち合わせが絶対必要なのだと思います。

学校では、授業でヒップホップを取り入れています。かつぼれは、日本の伝統芸能です。昔の言葉も覚えられるような歌になっています。打ち合わせを通して、支援員にはそういったことを理解していただかないと、いざ行っても良さを伝えられず、邪魔者扱いされるのではないかと思います。

仁田議長： 全校の支援員がそのような対応ではないと思います。

櫻井委員： 私が所属している国際交流協会では、「世界の子ども達」について知ってもらおうということで、民族衣装を着せてあげるところから発展して、今、世界には学校に行かれない子ども達がいる、では、なぜ学校に行かれないのかという理由をお話しながら、貧困の国の実情を知ってもらう活動をしています。毎月、各校に伺っているのですが、マネージャーと事前に打ち合わせをしているのにも関わらず、来てほしくないような態度を取られることがあります。と思うと、大変協力的で、支援員までも積極的に参加してくれる学校もあります。

同じ会社の方なのに、なぜこんなにも温度差があるのかと不思議に思っています。子ども達はみんな興味深々で目が輝いているし、もっとやりたいのにとところが課題にもなっています。

それと、支援員が、子どもにこれしちやいけない、あれしちやいけないとよく怒っているらしいです。さらには、大人も怒られてしまったことがあったようです。そういった対応が各校によって違うようですが、

統一されていないのでしょうか。

仁田議長： こればかりは現場にいてみないとわからないことですね。

行事の企画や数もマネージャーによって違うようです。

年間行事は、概ね委託業者の方でプログラムを組んでいますが、私達が考えるところは、それ以外の外部からの枠で参加してあげられたら良いなというところだと思います。

持田（憲）委員： 私は、発足時から地域ボランティアをしていましたけれども、ボランティアで参加する人は、大体が、子ども達と仲良くなりたいたいか、退職した余裕時間を元気な子ども達と接して、自分も元気になりたいという気持ち強い方が多いと感じます。

地域と学校というのは、昔は、学校が中心になって地域が盛り上がるということがあったわけで、それを再現するような取組として、地域の人間がボランティアとして参加できるという非常に良い事業だと思っています。ただ、年に1回か2回来ていただくというのもいいんですが、やはり、日常、子ども達と接触して見守りながら、いっしょに遊んだり、勉強したりするということが大事なんだと思います。

また、勉強を教えるというのは、画一的な学習塾ではないので、授業のサポートのようなことはできませんが、例えば、辞書の引き方や歴史年表の見方のような基礎的なことは、家庭でも教える範囲のことなので、ボランティアが聞かれたら、教えて良いのではないかと思います。もし、それが学校に迷惑がかかるようならば、学校側がボランティアに対して、「今、学校ではこのような教え方をしています。」というような演習をしていただくと良いのではないのでしょうか。

小一の壁とありましたが、今の若い年代のお父さん、お母さんは、子育てに戸惑っているのではないのでしょうか。子どもの教育以前に、親の教育も必要だと感じます。今の若い年代は、家庭教育がおろそかになっていた人が多いのではないかと思います。そういう人達のための研修が必要なのではないかと思います。確かに、そういうチャンスを作っても、積極的に参加する方は良いのですが、問題なのは、悩むだけで出てこない人なので、子どもを通した親教育がどこまでできるかという課題があると思います。

もう一つは、守谷には外国の方が結構多くなっているようです。外国の方の場合、子どもは学校に毎日通って、日本語に触れる機会が多いため、話せるようになるのかもしれませんが、親は、対面して話すことはできても、文書をもらっても良く理解できないなどもあるようなので、コミュニケーションの取り方とか、お迎

えのときも、日本語ができないからお母さんは来ませんよということもあるので、そういうことをサポート出来るシステムを考えられないかと気になったことがあります。

それから、子どものトラブルについてですが、ここ数年あったトラブルの事例などを支援員とボランティアが共有して、問題が起きたときに、どう対処したら良いかなど、難しい問題だとは思いますが、情報提供してもらえれば、ボランティアもやりやすいと思います。

仁田議長： 長期間、ボランティアに携わっていただいております。子ども達はボランティアの方ととても仲がいいんですね。子ども達から声を掛けたりして親しみを持って接してますし、囲碁や将棋、読み聞かせなど、学校や家庭でできないような貴重なことを教えていただいて、ありがたいと思います。

親の教育については、年間で家庭教育講座をやっていますが、参加者が多いとは言えません。行政も、できるだけ休日を活用して講座を開ければ良いと思うし、それに伴って、外国の方への教育もできればベストだと思います。

櫻井委員： 国際交流協会では、日本語講座をやっていて、今、昼間と夜の講座があります。昼間の講座には、子どもを持つお母さんもいますし、夜は、小学生とお母さんが二人で参加している例もあります。ただ、場所が国際交流研修センター（ログハウス）なので、車を持っていない方は来られないのではないかと懸念しています。

仁田議長： 話が戻りますけれども、外部評価の方達は、放課後の各学校の現場を見ていらっしゃるのでしょうか。

事務局： 外部評価の方からは、書類上の事業内容を見て意見をいただいている、実際の現場は見ていません。お一人、ボランティアで参加されている方がいて、ご自分が参加している学校の活動に関しては把握されているようです。

家庭教育については、一昨年から休日に、家庭教育講演会を開催していますので、悩んでいる保護者の手助けができればと思っています。

ただ、一番ネックなのは、本当に悩んでいる方、参加してほしい方が来てくれないということです。今後、このようなことを課題として、市としても、いろいろな方策を考えていきたいと考えています。

プラン開催中の事故・怪我等に関しては、現場にマニュアルを備えているので、万一のときは、それに従って行動するようになっています。病院に搬送するなどの事故や、子どもから保護者間のトラブルにつながるような例があった場合は、必ず市に報告するようにしています。大きなトラブルに関しては、夜遅くても担当に一報が入るようになっています。子ども達を預かる上で、ボランティアの皆さんには、大変ご苦勞を掛けていると

感じます。運営委員会等の中で、ボランティアの皆さんのご意見を聴きながら、対応していきたいと思います。

学習支援に関してお話しておきたいのですが、守谷市におきましては、サタデー学習支援教室を行っています。今、小学校4年生から6年生が70名ほど参加して、学習でのつまずきの解消に向けて、一人ひとり丁寧に教えるという県内でも先端をいくような取組で、指導は、教職の経験がある方をお願いしています。

仁田議長： 学校によっては、余裕教室が少なく、活動場所の確保に苦労していると聞いていますが、施設長の立場として、鴻巣校長先生からお話をお願いします。

鴻巣委員： 4月に御所ヶ丘小学校に赴任して感じたことは、他の市町村と違って、学校と児童クラブ・子ども教室が近くにあって、連携が取れていると感じています。

前任校は、公民館等、離れた場所に児童クラブがあって、学校からすると、どうしてもよその施設という意識がありました。

守谷に来たら、児童クラブは同じ施設にあるし、子ども教室は余裕教室で活動しているし、例えば、うちの小学校の場合、夏の暑いときにエアコンがない施設で活動することが難しいときには、エアコンがある部屋に活動場所を移すなど、マネージャーと話し合って、柔軟な対応をしています。

また、職員室に良くマネージャーが来るので、同じ学校の子ども達なんだから、学校の教育活動に支障がない限り、児童クラブや子ども教室で困ったことがあったら、施設を貸すよう職員には話しています。

また、放課後に起きたトラブルは、マネージャーから連絡があったりと、常に情報交換ができるので、このシステムは非常に良いシステムだと感じています。

仁田議長： 今年度4月から、黒内小学校の児童クラブが学校敷地外に建設されましたが、何か問題は起こっていませんか。

事務局： 黒内小学校については、校外に出すという不安はあったのですが、行き止まりのような道路になっていますので、比較的、危険は少なく、今のところ事故等も起きていません。

また、クラブ室が2箇所に分かれています。マネージャーの他に、サブマネージャーを置いて、施設間の連絡を密にしながら運営をしています。

持田（正）委員： 統轄指導員を退職してから、ボランティアで月4～5回、施設を回ってほしいと頼まれて巡回しています。黒内は施設が2箇所ということもあり、意識的に回数を多く回るようにしていますが、マネージャーを中心に連携が十分に取れていると感じています。支援員の配置等、教育委員会の手厚いサポートがあって成り立っているのだと思います。

また、守谷の放課後子ども総合プランの素晴らしいところは、9つの小学校の校長先生が施設長という立場で関わってくれているところが、活動をスムーズに行うことができる大きな要因だと思います。

私が退職する1年前に、つくばみらい市の児童クラブの委託を始めたのですが、つくばみらい市は、児童クラブに来た子どもだけの面倒を見る、離れた場所にクラブがあるのですが、その場所に来た子どもの面倒を見るわけです。ところが、守谷市の9つの小学校は、学校からクラブ室に間違いなく来ることを、マネージャーと支援員がチェックするんです。子ども教室に参加する子も同じです。それは、「間違い下校」すなわち、親の依頼と間違った方向で子どもを帰してしまうことがないように、間違えば居場所がわからなくなるわけで、帰宅途中の事故なども含めて、ものすごく神経を使って対応しています。このような点では、県内でも頭抜けているのではないかと思います。

支援員についてですが、本当にいろいろな人がいます。離職率も高くて、3～4日で辞めてしまって、また、新しい支援員を探すようなこともあるので、なかなか組織が定まらないなど、そういった点はとても難しいと感じるところです。

以前に、マネージャーがご家庭の事情で、急遽、辞めなければならぬ事態が起きたとき、新しいマネージャーを育てることに大変苦労しました。何箇所も掛かりましたが、今では立派に切り盛りしています。

できることなら、人材バンクを作って、欠員が出たときに、すぐに対応できるシステムに出来ればと考えていますが、意欲が伴うことだけに、なかなか難しいところです。

仁平副議長： マネージャーや支援員になるために資格はいるのですか。

事務局： 保育士や教員の資格を持っている方が望ましいのですが、そういった資格を持った人を揃えることは難しい状況です。その場合には、保育等に携わる仕事を2年以上経験した方なら職に就いていただくことができます。これは、国の指示により制定した市の条例にも謳われています。ただし、定期的に県が開催する研修を受けていただかなければなりません。

先ほど、離職率が高いというお話がありましたが、市が直営を辞めて、民間委託した理由に、支援員を確保できないということがありましたので、この点を委託先で対応していただけているため、大変助かっています。

仁平副議長： 支援員が確保できないというのは大きな問題だと思うのですが、今は大丈夫なのでしょう。

事務局： 今は大丈夫です。

持田（正）委員： 私は、教員として勤めてきた経験しかないのですが、この仕事

に就いて、すぐに辞めてしまうというのは、人の命を預かるという意識が弱いのではないかと思います。それから、「面倒を見てやってるんだ。」という気持ちなのではないでしょうか。仕事として、子ども達の支援に携わって、サラリーを貰っているという意識を身に付けないと丁寧な対応はできないと感じます。

持田（憲）委員： 小学生の場合は、児童心理をしっかりと身に付けているくらいの支援員でないと、ボランティアとして参加していても不安です。実際に、結構、乱暴だと感じることもありました。その辺は、採用してからでも研修を行ったりすれば補うことができると思います。

事務局： 全くその通りだと思います。先ほど、2年以上の経験があれば支援員の職に就けると説明しましたが、その後の研修も必須です。委託先での独自の研修や県の研修に参加していただいて、自らのスキルをアップしていただかなければ事業が成り立たないので、今後も、注意して見ていきたいと思えます。

仁田議長： それでは、今後、こういった方向で何を望むか、御意見はありますか。また、子ども教室が来年度から全て有料になります。2,000円を払ってでも来たいという、魅力のある活動にするには、先ほどの学習支援のこととか、行事のこととかあると思うのですが、学習支援のことについては一長一短があるし、学校の授業との兼ね合いも含めると、現時点では「はい、やりましょう。」ということもできないと思えます。

事務局： 地域ボランティアの皆さんは、地域子ども達とふれあうことを目的に参加してくださっているということを知って、皆さんには、日常の遊びや体験の中で特技を教えてください、勉強に関しては、宿題の時間帯の中で、基礎的な部分なら教えられるということでした。踏み込んだところまでは、確かに難しいと思えます。皆さんのお話を伺って、学習というのは勉強だけではなく、地域の皆さんや団体の皆さんに御協力いただきながら体験教室を行うなども放課後ならではの取組だと感じましたが、中村校長先生いかがでしょうか。

中村委員： 私も、2年前まで郷州小学校にいましたが、郷州小学校の放課後子ども教室を見て、非常に素晴らしいと思っていました。放課後、子ども達に対するしつけが徹底しているんです。宿題の時間は、子ども達がきちんと集中して宿題に取り組んでいるんです。私は、それでいいと思えます。自分で、自分の勉強ができるようにしつける、その習慣を身に付ける、そうすれば、自分から学習に取り組むようになり、どうしてもわからないことだけ聞けばいいということが、自分で学力を上げる学びの力になっていくと思えますので、放課後の決められた時間の中で、自分で学習に取り組むことのできる子どもを育てていただけているのだと感じていて、放課後の役割としては、それで十分だと思います。

仁田議長： 放課後の時間でしかできないことをやるのが大事なのですね。

中村委員： 外部から講師を招いて様々な体験活動をしていますけれども、そういった活動は素晴らしいと思います。

仁田議長： 子ども教室の参加人数も、当初から比べると雲泥の差です。最初の頃は10人にも満たない状況で、これでやっていけるのかといつも不安に感じていました。

今後も、児童クラブの対象にならない児童の親御さんにも、子ども教室に参加させたいと思ってもらえるようなものになるように期待したいと思います。

仁平副議長： 私は、大野小学校の子ども達と登下校を共にして30分程度話をしていますが、ほとんどの子ども達が児童クラブか子ども教室のいずれかに参加していて、やはり、子ども教室には行きたいという声が多いです。行かない日は、習い事や塾がある日だけのようです。それだけ、多くの子ども達が参加しているのだから、魅力があるのではないのでしょうか。恐らく、無料日を無くしても、参加が増える要素はあるのではないかと思います。有料になっても何ら問題はないし、無料の体験日も年に何回とか決める必要もないし、ちょっと行ってみようかなという時を体験日にするなど、もっとオープンな感じでも良いのではないかと思います。

仁田議長： 無料日設定の経緯は、事業のPRが目的です。それも10年経過して、現在は知らない人はいないし、受益者負担の観点からも廃止する方向になったわけですが、中には、「無料日だから行かせる。」という保護者もいます。そういったことから、年に5回程度は無料の体験日を設けようということになった次第です。

持田（正）委員： これまでも資料にあるような様々な体験教室を開いてきましたが、外部の講師には謝礼を支払います。公的機関を活用すればお金が掛からないときもありますが、有料で、これだけの行事を行っているのは、恐らく他の市町村にはない取組だと思います。この辺の活動を特徴的な活動として、かなりの件数を行っているので、2,000円でも安いくらいではないかと思っています。

確かに、学習支援という内容を望む保護者もいらっしゃると思いますが、守谷は、こういった生涯学習的な魅力ある活動に取組んでいくことを特徴にしたら良いと思います。

仁田議長： 皆さんの意見をまとめると、学習支援というよりも、日常の活動で地域の方とふれあったり、理科実験のような体験学習をしたり、寄席やかっぱれなどの伝統文化に親しんだり、世界の実情を知ることなどを継続して、学校の授業ではできない生涯学習的な魅力ある活動に力を入れるという結論でよろしいですね。→ 意義なし

教育長： 全国学力テストの結果分析の中で、学校以外の時間で勉強する家庭学習

等との連携が成果を上げている要因の一つだということが新聞等で紹介されているので、その辺が重要になってくるのではないかと思います。守谷の学校も、家庭との連携ということで、先生方に御尽力いただいて成果を上げている状況です。今、サタデー支援教室もそうですが、自分の家庭で学習できる子どもはどんどん進めてもらえば良いのですが、それ以外の子の手助けをしようということでスタートしています。

今は、土曜日だけですが、できたら毎日、自分ではなかなか勉強できない、あるいはそういった家庭環境にない子どもをどうフォローしていくかということも課題になっています。それをどうするかを今、我々も考えているところですが、果たしてそれを、放課後子ども教室に任せられるのかということは、また別問題として、今後、検討していかなければならないと思っています。我々も、今日頂いた御意見を参考に、これから協議していかなければならないと考えます。

先日のタウンミーティングであった御意見は、この放課後の取組は、地域の大人と子ども達が接するという、これから社会を開く上でも貴重な場であると思っているので、ぜひ、大事にして進めてほしいというお話もあったので、今、お話を伺っていると、地域のいろいろな方とのふれあいが、子ども達にとって、何らかの良いチャンスになっていると思ひ、そういった部分をもっと大事にしていかなければならないと再認識しました。

仁田議長： 新聞等で見ましたが、守谷の子ども達の学力は、県内でも上位です。子ども達は大変頑張っていると思います。

教育長にお願いなのですが、地域ボランティアが高齢等により、年々減ってきています。御協力いただける方がいらっしゃるとありがたいので、ぜひ、タウンミーティングでPRをお願いできたらと思います。

(2) その他

事務局から、今年度の予定について連絡

4 閉会